

この機会は私に将来の希望と課題を与えてくれました。

一日目は、まず、ディレクトフォース笹川平和財団の人達からお話を伺いました。最初の近藤玄大氏の講演で、最初の方は将来何をするか決まっておらず、漠然と考えていたとおっしゃっていました。しかし、海外に行ってみた時の経験や、横井教授に誘われたことをきっかけとして、自分として認められる仕事をしたいから義手を作りたいと思うようになったというお話を伺って、自分の将来は経験やきっかけによって大きく左右されるということに気がつきました。さらに、起業してみたり、また、ソニーに入社して義手の研究をしたりなどして常に挑戦することが大切なのだと思います。

最後に近藤氏がおっしゃっていた『マイナスを隠すのではなく、マイナスをプラスに変えていく努力が大事』『新しいことをするには、期待も不安も抵抗もあるが、だからこそ、できることからやって確かめてみるのが大切』という言葉から、ひとりひとりの個性をおかしいと言って否定するのではなく、むしろ個性を強調することの方や、頭の中だけでできないだなんて決めつけしないで、実際に行動に移して結果を確かめることが大切なのだと思います。

次に、グループに分かれてのセッションがありました。

遠藤様からは、様々な経験を積み、ひとつの出来事・物事を複数の視点から見るのが大切だと学びました。逆さまに印刷された日本の地図を例にして、他の国ではものの見方や価値観が全く異なるということを教えてくださいました。また、海外では英語を話せるよりも話題作りの方が重要だとも教えてくださいました。『平和な世界にしたい。そのためにはどうすればよいか。』のそのためにはどうすればよいかの部分が海外では問われるため、新しい体験などを通して自分の考えや価値観を身につけて行きたいと思いました。

角田様からは、興味のないことにもチャレンジして見るのが大切だと教えてくださいました。角田氏は中学生の頃から宇宙などが好きで、京大物理学科に進学したいと志して勉強したそうです。しかし、思考するよりも目に見えるものの研究のほうがしたいと思うようになり、その頃に地球温暖化などの気候変動が話題になったのもあって、地球物理学の研究をしたそうです。また、研究者として1つのことを極めるよりもいろいろな人の研究を伝えたいと思うようになり、幅広いことをしたいと思ったそうです。このようにして様々なことを体験することで視野が広がると学びました。そして、将来したいこと・やりたいことを今のうちから見据えて逆算することも大事なことだとおっしゃっていました。

安達様からは、勉強だけでなく経験も必要だと学びました。海外では日本と宗教や世界観は全くもって異なるので、そのために相手と話して違いを理解し、その違いを克服するために論理的に考えて相手を説得することが大切だとおっしゃっていました。社長となった経験を生かして強いリーダーシップを持ち、日本という枠にとられないことが重要

だとお話しをしてくれました。

午後は、東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻の分野を研究している田近英一教授のもとを訪れました。田近教授は最初から研究者になろうとは考えてはいなかったそうです。ただ、研究者になるからにはその先のことも見据えるなどしてよく考えた上で、研究を行っていく強い意志が必要だとお話ししてくださいました。研究の主な手法はシミュレーションであり、水蒸気や二酸化炭素などの量を決め、それを時間発展方程式などに代入してその場合の地球はどのように変化していくのかなどを調べているそうです。また、研究は大変だが、新たな発見があると感じられると頑張れるとおっしゃっていました。英語に関しては、文法や単語などの知識は必要ではあるが、毎日読むなどして慣れることも大切だと教えてくださいました。論文は英語で書かれているため最初はなかなか読み終わらないらしいですが、慣れてくると年間で100本もの論文を読めるようになるそうです。

英語に慣れるためには外国に行ったり、英語で映画を見たりすることが良いそうです。他の惑星には生物は存在するのか、という質問に対しては、バクテリアのような生物ならどこにでもいるのではないかと教えていただきました。ただ、地球の生物のように複雑な仕組みの動物が存在するには酸素濃度の上昇などの他にも様々な条件が必要なので、難しいのでは、ということでした。その酸素濃度の上昇には全球凍結が関わっている可能性が高く、田近研究室はそのことについてもっと研究して行きたいとおっしゃっていました。

現在の地球温暖化は過去の地球環境などから考えて、これからの地球はどうか、また私たちにできることは何かという問いに対しては、地球の気温は過去の地球環境ほどまでは気温は上昇はしないが、そのペースが過去と比べて早いことが問題だと教えてくださいました。だから、小さいことではあっても、ひとりひとりの地球温暖化を食い止めようという意識が大切だとおっしゃっていました。最後に、高校生のうちにやってほしいこと・大切なことについて訪ねてみました。教授は、高校で学んだことが生きる瞬間はたくさんあるのでぜひとも身につけてほしいとおっしゃっていました。そして、受験のために勉強するのではなく、楽しく一生懸命に学んでほしいともいっておられました。確かに受験勉強は大事ですが、他にも様々なことを知識として身につけたいと思いました。夕食後には、二高を卒業した先輩方との座談会があり、高校時代の勉強方法や東京での生活、休業中の過ごし方などを教えていただきました。

二日目は、東京大学の駒場キャンパスと本郷キャンパスを訪問しました。最初は駒場キャンパス内を案内してもらいました。僕は東大は凄く勉学に対して真面目な印象を持っていました。東大生の説明を聞いてもその印象は変わりませんでした。サークルの活動や学生連合などが活発で、勉強以外でも楽しく過ごせることに気がつけました。また、進学選択という制度がものすごく魅力的に感じられました。東大にしかない特色だと聞いたので、素晴らしい制度だと思いました。もし東大に合格したら、この制度を利用して様々な

講義を受けてみたいと思いました。また、東京では仙台とはまた違った充実した生活が送れるというのも都会ならではだと思いました。本郷キャンパスでは、実際の講義に参加したり、二人の教授の貴重なお話を伺うことができました。特に金子教授のお話は水中の塩分濃度を変えるだけで淡水魚も海水魚も住めるようにできるという、とても興味深いものでした。最後には、東大生の方との質疑応答で、大学での生活習慣や高校の頃の勉強の仕方・アドバイスなどをもらうことができました。

しかし、課題も残りました。集合時間に何度も遅れてしまい、先生方だけでなく、東大生の方にも迷惑をおかけしました。もちろん社会では許される行為ではありません。これからは時間にゆとりを持ち、経路の確認などを怠らないようにして行きたいと思います。この二日間は忙しくて大変でしたが、これからの生活の仕方や将来に対する意識、自分の今の長所と短所、その克服の仕方などについて考えたり、人生の先輩からの貴重なアドバイスを受けてたりなど、そこでしか得られないものを仙台に持って帰って来られたと思っています。

自分はまだ将来何をするか明確には決まっていますが、これからの高校生活の中でたくさん経験をして、考えて、勉強もして、充実した意義のある時間を過ごして行きたいと思っています。